

安政東海・南海地震(1854)による河川閉塞、および新湖出現記録

Choking up of rivers and formations of new lakes caused by land sliding accompanied with the 1854 Ansei Tokai-Nankai earthquakes

都司 嘉宣 [1]

Yoshinobu Tsuji[1]

[1] 東大地震研

[1] ERI, Univ. Tokyo

武者(1951)の「日本地震史料」(Mと略す)や筆者の「東海地方地震津波史料・下」(1979、T1)、「東海地方地震津波史料」(1983、T2)、「高知県地震津波史料」(1981、K)、地震研究所発行の「新収・日本地震史料、第五巻・別巻五(二冊)」(1987、S)に紹介された安政東海・南海地震の各文献を精査すると、山間部での斜面崩壊が引き起こした河川閉塞と、それに伴う新湖出現の記録を見いだすことが出来る。現在までのところ、安政東海地震による記録が静岡県で5ヶ所、安政南海地震によるものが京都府で1件、和歌山県で1件、徳島県で2件、高知県で4件の合計13件が見つかっている。以下文献名には各史料集中の所載ページを明記して示す。

(1) 静岡県芝川町の白鳥山の斜面崩壊による富士川の河川閉塞

『庵原郡誌』(T1-156)によると、「内房村白鳥山崩壊して、その土石富士川を填塞し、一時下流は全く涸水するに至る。然れども洋々たる大流永く瀧留(ちりゅう)するべくもならず。忽ち一面を決去するや、滔天の勢を以て、富士郡長貫村の耕地を突破し、水勢更に猛烈を極めて奔流し(下略)」とあって、地震による白鳥山の斜面崩壊と富士川の閉塞による新湖の出現と、閉塞部の決壊、および下流にあたる長貫集落での洪水が描写されている。富士川西岸の橋上集落には、これによって死亡した6人を供養する石碑が建っている。

(2) 静岡県富士川支流稲子川の池の谷地点での河川閉塞

上述の白鳥山の斜面崩壊点の約1キロ上流で合流する稲子川の合流点から約3キロ遡った芝川町下稲子の池之谷集落の名称は、ここで河川閉塞が起きて出来た池に由来する。

(3) 静岡県島田市伊太の矢倉山の崩壊

『大津村史』(T2-194)によると、地震で伊太の八倉山の山腹に大亀裂を生じた。地震後4ヶ月を経過して安政2年2月の大雨で大崩壊が起き、田代から流下してくる流れを閉塞して新湖・八倉池を生じた。

(4) 静岡県川根町遠見場山崩壊・笹間川の閉塞

『笹間村誌』(T1-587)に「遠見場山の一部崩壊して、石上奥にて笹間川を堰き止め流水を中断す。この間およそ二ヶ月余。崩壊地を隔つる約一里(4km)上流の栗原まで一面の湖水をなす」とある。

(5) 静岡県天竜市山東、光明寺山の河川閉塞

『光明寺誌』(T1-673)に「震災で光明寺山南の大沢山が崩壊したので、大沢野水が停滞し、一時は大海の観を呈した」とある。

(6) 和歌山県すさみ町里の浦

『地震洪浪の記』(M-394)は古座町所蔵であるが、内容はすさみ町里の浦で書かれた文献である。「西北の谷、又は小河池の溪、両川とも旱水にて一滴もなかりかるに五日の地震後、翌六日両川へ泥水湧出したり」とある。上流部の一時的な閉塞によるのであろう。

(7) 京都府木津川

『雑事日記』(京都陽明文庫、S5-1441)の十一月七日の項に「南都(奈良)地震強、木津川出水」と記されている。木津川の上流で河川閉塞と決壊があったか。

(8) 徳島市川内

『川内村史』(S5-1896)の記載によると、吉野川のデルタの米津新田で、地下からの砂の噴出によって用水路が埋没して、下流の川では水が枯渇した。

(9) 徳島県阿南市新野町海老川の閉塞

『徳島県那賀郡新野町史』(S5-1891)に海老川地区西の谷が干上がり、魚がはねていた、とある。

(10) 高知県香美郡香北町での白川の河川閉塞

『暁霞村史』(K-187)に「白川では大音響と共に有ノ木谷に山崩れがあり人家埋る」とある。

(11) 高知県幡多郡佐賀町佐賀川の河川閉塞

『佐賀町郷土誌』(K-139)に「地震と共に伊予木川の水が一滴もなくなり魚が河原一面に死んでいた」とある。

(12) 高知県仁淀村長者川の渇水

『仁淀村長者郷土誌』(K-139)に「長者川は渇水のため一時川原になって」とある。

(13) 高知県土佐清水市三崎の河川閉塞

『矢野川正保手記・大變記』(K-125)の地震の2日後の七日の記事に、だれかが「山潮来る」と叫んだ。みるみる枯川に水が五六合急に出て、渡れないほどになった」と記されている。